



はじめに

～「働きやすいまち・ふなばし」を目指して～

船橋市は、市内企業のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を主とした取り組みを推進し、労働者の就業への意欲や満足度、生活面での充実感が相乗効果を生むことで、企業の生産性ひいては業績の向上につなげ、働く側から見ても「働きやすいまち・ふなばし」の実現を目指し、ダイバーシティ推進事業を実施してまいりました。

そして、市内企業の取り組みの一助となるようワーク・ライフ・バランス推進に先進的に取り組み、成果を挙げている市内企業について情報収集を行い、事例集を作成しました。この事例集では、各企業がワーク・ライフ・バランスに取り組んだ背景やきっかけ、また具体的に取り組んだ内容、取り組む上で工夫したことや苦労したこと等、推進していくにあたって直面した内容や、これらの取り組みによって得られた成果、また今後の目標や抱負等、企業の生の声を取材し作成しました。

各企業のワーク・ライフ・バランス推進についての進捗状況は様々であると思いますが、掲載企業の具体的な取り組み内容や取り組む姿勢等、参考にさせていただき、お役立ていただければ幸いです。

ワーク・ライフ・バランスとは？

仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」のこと。

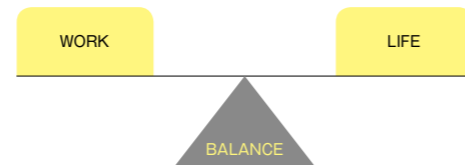
（仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章より抜粋）

ワーク・ライフ・バランスとは何ですか？と聞かれると、人によっては「残業しない」「たくさん休む」等という回答があるかもしれません。しかし上記の定義にはそのようなことは一つも書かれていません。

「充実感を持って働く」と「仕事の責任を果たす」ことが前提で、その上で「多様な生き方を選択し実現する」と書かれています。

「ワーク」と「ライフ」のバランスが保たれると、スキルアップやモチベーションアップの時間を確保できるようになります。様々な経験を積むことや、新しいことへのチャレンジにもつながります。

ワークとライフのどちらかを犠牲にするのではなくバランスを保つことは、個人の自己実現につながり、企業にとっては生産性の向上につながり、それが社会へと還元され好循環が生まれると考えられています。



目次

はじめに
「働きやすいまち・ふなばし」を目指して 01

ワーク・ライフ・バランス推進企業事例

CASE 1 URO 電子工業株式会社 03

CASE 2 株式会社 SAJI 05

CASE 3 社会福祉法人千葉県福祉援護会 07

CASE 4 生活協同組合パルシステム千葉 09

CASE 5 株式会社ジェイコム千葉 YY 船橋習志野局 11

企業におけるワーク・ライフ・バランスの進め方 13

認定制度等のご紹介 14

